

作品画像	タイトル	コメント
	fly away	<p>公園にて。鳥たちが飛び立つ瞬間の光景を描いた。下地として用いた白亜の色をあえて残し、光に溶け込む鳥の形や、光そのものを表現しようと試みた。一瞬の出来事を絵画空間に閉じ込めることで、そこに特有の時間の流れを感じる事ができればと思い制作した。</p>
	afterimage	<p>車窓から見える長閑な田園風景、庭先で摘んだ小さな花、幾度となく見上げてきた青空のある景色。イメージは流動的に見え隠れしながら、ゆっくりと脳裏に焼き付いていく。欠落のように見える余白は空虚ではなく、これからまた立ち上がるであろうイメージの生成の場を表している。</p>
	afterimage	
	afterimage	
	breathing	<p>グラスに無造作に生けられたトレニアの花のシルエット。その中に、微かな風を忍ばせるようにして絵の具を塗り込めていった。そこにある風は、花の呼吸でもあり、絶えず揺れ動く景色でもある。</p>

作品画像	タイトル	サイズ
	fragment	<p>日々の小さな気づきや出来事は、記憶の断片として私の中に蓄積されていくが、ふと何かをきっかけにして呼び起こされ、さまざまなイメージとなって表出されていく。風の揺らぎや草花のかたち、旅先で見かけた人の顔、通り過ぎた風景、カーテンと向こう側の景色等々…。とりとめのないイメージ群を瞬発的に描き出すことで、いま見えていることの感覚を視覚化したいという思いから制作に臨んでいった。描かれた断片は具象的であったり抽象的であったり、さまざまな現れ方をしているが、コロナ禍を経験した今、以前よりも鋭敏になった日常に対する眼差しが、諸所に反映された作品になったように思う。そしてそれらを合わせて展示することで、作品それぞれが反応し合い、緩やかな繋がりの中に、また新たなイメージが抽出されていけば良いと考えた。</p>
	feve	<p>パリの骨董市で見つけた、フェーブと呼ばれる小さな陶器製の人形。それは、フランスの1月の風習で食べられるガレット・デ・ロワというパイ菓子の中に隠されるもので、切り分けた時に入っていた人に幸運が訪れると言われている。たった数センチのこの人形を見るたびにささやかな幸福感を得られるのは、ユーモアのある形姿からだけでなく、その背景にある物語を想像するからではないだろうか。以前にも一度扱ったモチーフだが、いま改めて軽やかに描きたいと思った。</p>
	feve	<p>パリの骨董市で見つけた、フェーブと呼ばれる小さな陶器製の人形。それは、フランスの1月の風習で食べられるガレット・デ・ロワというパイ菓子の中に隠されるもので、切り分けた時に入っていた人に幸運が訪れると言われている。たった数センチのこの人形を見るたびにささやかな幸福感を得られるのは、ユーモアのある形姿からだけでなく、その背景にある物語を想像するからではないだろうか。以前にも一度扱ったモチーフだが、いま改めて軽やかに描きたいと思った。</p>